

# その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.141

田中 康夫



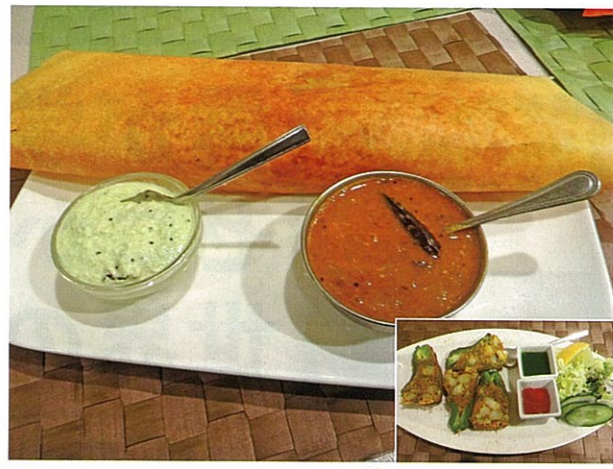
たなかやすお ● 56年東京生まれ、作家。'09年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。「文藝」(河出書房新社)2013年冬季号から17年ぶりに小説の連載を開始。【公式ブログ】<http://www.nippon-dream.com/>



YASSY

## 寺子屋や尋常小学校の往時よりも 退化・劣化している「自主自律」

### 今週の逸品



マイソールマサラダサ 1300円  
タンドールピーマン 840円

「谷町」の歴史を偲ばせる一廓の集合ビル1階。姿哲もなき内装のスワガットは880円からの午餐定食に加えて13時半からは南インド料理らしく香辛料控え目のマサラダサを飲料と共に1000円で味わえる。更に非日本

人比率が高まる晩餐時にはぜひともマイル仕様で。カレーもナンもタンドールも品書きは豊富。野菜豊富なインド焼きそばハッカヌードル850円も推奨。六本木交差点近くにもスワガットタバスが存在。

【スワガット六本木2丁目店】東京都港区六本木2-2-2イトーピア1F ☎03-3585-5251  
営業11:00~15:00、17:00~22:30(LO22:00) 日曜定休 <http://swagat-jp.com/menu>

illustration by Hajime Anzai



喫驚動顛した文部科学省は、文章や資料に記された単なる「情報の取り出し」に留まらず、「理解・評価・解釈・熟考」して「論述」する設問で「大きな課題が示された」と傍観者の弁明に追われる始末。即ち、「答えが問題のある部分に含まれ」た多肢選択や、「短い語句又は数値で答える」短答は得意だが、「答えを導いた考え方や求め方の理由説明等、長めの語句で答える」自由記述が弱いと。自分で考え・語り・動いた寺子屋や尋常小学校の往時よりも自主自律は退化・劣化しているのかも。

「科学的知見」なる「五字熟語」を聞いた瞬間にコロリと信じて疑わぬ昨今の思考停止は、斯くなる心智の露呈。金科玉条の如く崇め奉る科学的知見の「数値」も、全知全能から程遠き人間が編み出した形式知・集合知の現時点での「正解」に過ぎぬのです。リトマス試験紙が変わる瞬間を事前に察知する暗黙知とは対極です。

武家町の角館、合掌造の白川郷と並んで1976年、日本で最初に重伝建Ⅱ重要伝統的建造物群保存地区に指定された妻籠は、旧中仙道の宿場町。玄関口の中央西線南木曾駅の所在地は木曾郡南木曾町大字読書です。1874年明治7年に誕生したのが読書村。与川、三留野、柿其の旧三村の頭文字を取った「読み書き算盤」村の心意気でした。

自主自治的に自然発生した寺子屋が初等教育を担い、江戸時代から識字率は世界屈指だった日本が、

修業年限4年の尋常小学校を小学校令で義務教育として定めるのは、その直後の明治19年です。

ユネスコⅡ国際連合教育科学文化機関の資料に拠れば、日本の識字率は99・8%。因みにタイ92・6%、シンガポール92・5%、中国90・9%、スリランカ90・7%。では、目覚ましき経済発展の一方で通貨の脆弱性が懸念される「フレンジイール・ファイブ」諸国は如何に、と調べると南アフリカ88・0%、インドネシア87・9%、トルコ87・4%、ブラジル86・4%。

12億強の国民の2割近くが英語を難なく操り、「ゼロ」を編み出したインドのみ58・0%。

本当は75・6%、と2011年にインド政府は抗弁。これとて御世辞にも高い数値には非ず。「読み書き」の修得を万人に徹底した日本との違いです。成長の可能性を秘めながらも今一つ浮上しきれぬインドの悩みでしょう。

が、好事魔多し。OECDⅡ経済協力開発機構が実施した世界調査で、日本の児童・生徒の「読解力」はOECD平均程度に低迷。

嘗ては文字通り「谷町」の一廓に佇む「スワガット」は、ピカピカでツルツルでクールな超高層ビル群の真向かいに位置する、食べ手の非日本人比率が極めて高いインド料理店。写真は、香辛料を塗って焼き上げた大豆粉と米粉のクレープで馬鈴薯炒めを包んだマイルソールマサラダサ。それは情緒としての「ゼロ」を凌駕する刺激に満ちた「贈与の一撃」です。